

◎ 5年生 | 「あたたかい地方のくらし」

資料をもとに考える力を育てよう

1. 資料と体験を結びつけさせる



▲現在の沖縄の家

まず、教科書や資料集に載っている現在の沖縄の家の写真を見て気が付いたことを自由にノートに書かせます。

家がコンクリート製、屋根にタンクがある、といったことが見つけられるでしょう。授業ではこの後、なぜこうした造りなのか話し合うこととなりますが、その前に、各自で理由を教科書や資料集から証拠として探させ、ノートに自分の言葉でまとめさせます。例えば、「私は家がコンクリート製なのは、資料集〇ページにあるように、沖縄が台風の通り道になることが多いので、被害にあわないように丈夫にしているからだだと思います」といった具合です。このように、理由を資料と結びつけて記述し、発表する体験を重ねていくことで、資料から読み取り考える力がついていくのです。

ここでプラス！「この前の台風で私の家のサッシがゆれて夜眠れないほど強い風がふきました。こんな台風が何度もくる沖縄では、コンクリート製の家でないとだめだと思います」というように、自分の体験と比較して考えられるようアドバイスしていくとよいでしょう。こうすることで、台風の通り道という資料がより生きた資料になります。

2. 証拠を見つけさせるようにゆさぶる

なぜ沖縄の家にはタンクがあるのか調べると、水不足のため、雨水をためておけるよう設置しているという記述があります。児童は教科書は正しい、また一部の児童はインターネットの情報は正しいと思いこんでいますが、情報が氾濫する現在だからこ

そ、情報に対して自分で取捨選択したり、本当に正しいのか考えさせたりする経験を増やしたいところです。そこで、地図帳などを使って沖縄の降水量を調べさせます。すると沖縄は、東京や北海道、四国などに比べてはるかに降水量が多いことがわかります。ここでさらにプラス！児童に、「水不足だからタンクがあると書いてあるのは間違いじゃないの、違うなら先生を納得させる証拠を見せてごらん」とゆさぶります。なかには教師につられて考えを変える児童も出てきます。しかし、納得しない児童は、沖縄には大きな川やダムがないことを見つけてきて反論します。教師がゆさぶることで、必要な資料を探す力、資料を基にして反論する力がついてくるのです。

3. 多くの知識は思考する源になる

私は思考力の源は知識だと考えています。知識が多いと結びつける組み合わせが増え、多様な思考ができます。上の例でいうと、後述のような知識があると、さらに新しい考えが出てきます。沖縄は山が多く川は短いため、降った雨はすぐに海に流れてしまい、降水量が多くても水不足になりやすい土地です。これを解消するため、地下に水を通しにくい層を造って、地下に水を貯める「地下ダム」という発想が生まれ、近年実現しようとしています。「地下ダム」が実現するまでは、雨水にたよるしかない。だから沖縄の家にはタンクがあるのです。この「地下ダム」については資料集にわずかに記述があるだけです。だからこそ、こうした記述を見つけた児童をおおいにほめ、教師から補足することが大事です。

なお、4月に社会科資料集を購入するとき、複数の教材会社の資料集を購入しておく、教材研究に役立つのでおすすめです。